

令和5年度自転車関連実施事業

資料1

通学

- 実現したい将来の姿
- ・ 子どもの時から発達段階に応じ、定期的に安全教育を受けることで、安全利用の意識が根付きます。
- ・ ルールをしっかりと理解し、安全な通学路を安心して通学できます。
- ・ ルールを守り安全に利用することで、周りの歩行者なども安心して暮らせます。
- ・ 子どもの時から、自転車のことをしっかりと理解しているため、大人になっても正しい自転車利用を続けていくことができます。
- ・ 自転車が利用できる時には、優先して自転車を利用する習慣を定着させることで、市民にとってもまちにとっても

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

活用場面	事業の区分	施策	関係団体	整理番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	事業実施関係団体	
①通学	安全教育	交通安全教育の継続・充実	行政 学校 警察	1-1	交通安全教室の実施	対象年齢や交通事故情勢等にあわせた交通安全教室の実施	子供の交通事故死者数0人	令和5年度に実施した「自転車」を取り扱った交通安全教室 総計:111回 12,056人(内訳は以下のとおり) ・小学生(中中学年):87回 5,960人 ・中学生: 16回 3,213人 ・高校生: 8回 2,883人 令和5年の子供の交通事故死者数は0人で、目標を達成した。	豊橋市(安全生活課)	
				1-2	豊橋市自転車の快適で安全な利用の推進に関する条例の推進	条例の周知を図っていくとともに、自転車の交通事故が多い世代である高校生の交通安全対策をより推進するため、市内の高等学校で交通安全モデル校を定め、行政・学校が一体となって交通事故削減のための取り組みを行う。	自転車安全利用モデル校の豊橋西高校、警察と連携して自転車の交通安全啓発活動を推進して、市内の他の高校でもこの取組が波及することを目標に、高校生の交通事故ゼロを目指す。	自転車安全利用モデル校の豊橋西高等学校と一体となって毎月1回の朝の交通立ち番への参加や、校内放送で交通安全を呼び掛け等啓発活動を行った。	豊橋市(安全生活課) 愛知県、市内高等学校、豊橋警察署、損害保険会社、保険代理店	
				1-3	200日間自転車無事故無違反ラリー	自転車の交通安全意識の高揚と交通事故防止を目的とし、豊橋市内の中学校・高校で200日間自転車無事故・無違反ラリーを実施し、達成した学校に表彰を行う。	自転車利用時における法令遵守と交通安全意識の高揚を図る。	達成校 中学の部:20校(参加校21校) 高校の部:4校(参加校11校)	豊橋警察署	
				1-4	イベント内での自転車交通安全利用の啓発	車を使わない移動について考えるイベントのカーフリーデー内で自転車シミュレーターを活用した自転車安全利用の啓発を行う。	・自転車シミュレーターを活用してイベントを楽しみながら自転車の安全な利用について啓発する。	イベントを楽しんでもらいながら、自転車の安全利用について学ぶ機会を創出できた。 ※(参考)カーフリーデー来場者数約2,100人	豊橋市(都市交通課、安全生活課)	
				1-5	●自転車交通安全プロジェクト「自転車、安全に乗りね」ステッカーデザイン募集【資料1-1】	①ステッカー原画募集 テーマ:「自転車に乗るときにはヘルメットを正しくかぶることを推奨するもの」 対象:豊橋市内小学生児童 ②ポスターデザイン募集 テーマ:「幅広い世代に対して自転車の安全利用を推奨するもの」 対象:中学生以上とされたも	市民の自転車の安全利用を促し、悲惨な自転車交通事故の発生抑止を図る。	応募総数:59点(小学生の部:43点 中学生以上の部:16点) それぞれ最優秀賞の作品については①ステッカー(反射素材)②ポスターを制作した。また、作成したステッカーは市内の交通安全教室等の啓発活動で広く配布を行い、ポスターは市内の小中学校、高等学校などに掲示した。	豊橋市(安全生活課)	
		指定通学路一斉点検の実施と対策の展開	行政 学校 警察	1-6	通学路一斉点検	1~6ブロックの学校で指定通学路点検を実施。点検結果による課題に対して、個別に安全対策を進める。	指定通学路点検により挙がる要望に対し、豊橋市通学路連絡協議会で検討し、子どもたちの安全の確保に努める。	・協議会メンバーで北部中・津田小の通学路の現地調査を実施。 ・北部中・津田小の通学路…「道の拡幅、または、一方通行規制、車両通行止め」を要望。→道路関係者より、区画線の引き直し等、自動車の速度を抑制するような措置を行う予定。 ・指定通学路点検により挙がる要望について、関係各課の検討結果を各校へ伝えることができた。要望が実現しない場合についても、理由を説明したり、代案を示したりして、理解が得られるよう努めた。	豊橋市(学校教育課、安全生活課、道路維持課)	
	意識啓発	自転車に乗り続けることのメリットの周知・啓発	行政	1-7	-	-	-	-	-	-
				行政 学校 警察	1-8	自転車放置対策推進事業	・放置自転車を防止するための指導・啓発活動・無料駐輪場の整理等維持管理・市営駐輪場の利用促進策の検討・実施 ・学生に向けた放置規制区域案内、定期利用案内の学校への配布 ・ピクトを強調した放置禁止区域案内看板への取替 ・サイクルパトロールによる自転車放置禁止の警告札貼り付け	・放置自転車の減少・市営駐輪場の利用者数増加	【市営駐輪場利用者数】 R4:832,345台 R5:847,967台(前年度比:101.9%) 【放置自転車撤去台数】 R4:789台 R5:979台(前年比:124.1%)	豊橋市(土木管理課) 指定管理者((株)日本メカトロニクス)、委託業者(公益社団法人豊橋市シルバー人材センター)、委託業者((株)日本メカトロニクス)
	支援・補助	自転車通学者のヘルメット着用に関する支援	行政 学校	1-9	豊橋市ヘルメット購入補助金	・市内在住者に対し、ヘルメット購入費の一部を補助することで自転車ヘルメット着用を促す。 (ヘルメット購入費用の2分の1 上限2000円)	・自転車を利用するときのヘルメットの着用率を上げる	令和5年度補助金利用件数 4755件(内訳は以下のとおり) ・未就学児 426件 ・小学生 993件 ・中学生 385件 ・高校生 110件 ・その他 2841件 R5市民意識調査より自転車を利用している人のうちヘルメットを着用していると回答したのは、令和4年度の13.3%から令和5年度は23.6%と増加していたため、達成。 補助金利用件数は昨年度比82%増となった	豊橋市(安全生活課) 市内の自転車販売店 市内の制服取扱店	
				1-10	●自転車交通安全プロジェクト「ヘルメットと一緒に被ろう！プレゼントキャンペーン」【資料1-1】	自転車死亡事故の発生頻度の多い高齢者と自転車利用の多い18歳以下が2人1組でペアを作り、自転車ヘルメット購入補助金を利用してキャンペーンに応募した人の中から抽選で景品を贈呈する。	市民の自転車の安全利用を促し、悲惨な自転車交通事故の発生抑止を図る。	応募者27組の中から抽選で豊橋市名産品、クオカード等を贈呈した。	豊橋市(安全生活課)	
	情報提供	安全・快適な移動経路などの情報収集・提供	行政 警察 企業 学校	1-11	自転車安全・快適利用啓発事業(ステッカー貼付)	バス車両後方左側に「自転車は左側通行」のステッカーを貼ることによって、自転車利用者に交通ルールとマナーを訴える。	・視覚的に訴えることにより、事故のリスクを低減させる。	平成27年度より、継続してステッカーを貼っている。お客様のバス降車時に自転車との接触事故を受けて、事故防止会議にてドラレコの映像を検証して指導した。	豊鉄バス	
				1-12	自転車利用促進リーフレット作成	自転車通行の原則や注意事項、自転車通行空間やサイクルトレインなどを掲載したリーフレットを市内の高校1年生へ配布する。	・安全で快適な自転車利用についての意識の醸成を図る。	市内の新高校1年生(約3500名)へリーフレット「豊橋CITY CYCLE スタートブック」を配布し、自転車通行の原則や注意事項、自転車の環境整備について周知できた。 R5年度は市内自転車販売店等にも配布したほか、道の駅とよはしでお得にサイクリンググッズが買えるキャンペーンも実施。	豊橋市(都市交通課)	
				1-13	交通安全教室の実施(再掲)	対象年齢や交通事故情勢等にあわせた交通安全教室の実施	子供の交通事故死者数0人	令和5年度に実施した「自転車」を取り扱った交通安全教室 総計:111回 12,056人(内訳は以下のとおり) ・小学生(中中学年):87回 5,960人 ・中学生: 16回 3,213人 ・高校生: 8回 2,883人 令和5年の子供の交通事故死者数は0人で、目標を達成した。	豊橋市(安全生活課)	
		新しい生活様式での自転車の活用情報の提供	行政	1-14	-	-	-	-	-	

通勤

○ 実現したい将来の姿

- ・ 企業自身が自転車通勤のメリットを理解し、積極的に従業員に対する利用啓発を展開します。
- ・ 毎日の通勤がリフレッシュや運動の時間になり、心も体も健康で明るく通勤しています。
- ・ 朝夕通勤時間帯の道路混雑が改善し、さらに自転車も車道を走りやすくなります。
- ・ 多くの企業が「健康経営」を実現し、働く場としての”とよはし”の魅力が高まります。
- ・ 働く世代の生活習慣病などの有病率が低下し、市の医療費負担も軽減されます。

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

活用場面	事業の区分	施策	関係団体	整理番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	事業実施関係団体
② 通勤	安全教育	企業を通じた交通安全教室の実施・充実	行政企業	2-1	—	—	—	—	—
	意識啓発	企業での自転車活用促進に関する啓発	行政企業	2-2	地域・職域連携推進事業 (とよはし健康マガジンの発行)	健康経営を実践する市内事業所「とよはし健康宣言事業所」に対し、市の施策や事業等に関する情報提供を行う電子マガジン「とよはし健康マガジン」にて、自転車利用促進に関する記事を掲載する。  ※「とよはし健康マガジン」とは、庁内から、企業にPRしたい健康づくりに関する記事を掲載した電子マガジン。	・とよはし健康マガジンを作成し、市内企業へ配布することにより、市内事業所における自転車利用促進及びエコ通勤の普及啓発を行う。	・庁内から、企業にPRしたい健康づくりに関する記事を募り、とよはし健康マガジンを6月号、9月号、12月号、3月号の全4回配信した。 ・とよはし健康宣言事業所約170社に、とよはし健康マガジンを送付し、企業の労働安全衛生担当者を通じて従業員へ周知した。	豊橋市(健康政策課) 豊橋商工会議所 全国健康保険協会愛知支部
				2-3	健康経営推進事業 (とよはし健康宣言事業所認定制度)	・健康経営を実践する市内事業所「とよはし健康宣言事業所」及び健康経営の取組を検討している企業に対し、とよはし健康宣言事業所に係る印刷物やホームページ等を用いて、健康経営の取組内容としてエコ通勤(徒歩、自転車や公共交通機関を利用した通勤)を推奨する。  ・商工会議所や協会けんぽ愛知支部等、健康経営推進に関する連携機関を通じて、とよはし健康宣言事業所認定パンフレットを配布し、支援メニュー「エコ通勤の推進」を広く市内企業へ周知する。	健康経営の支援メニューの一つとして「エコ通勤の推進」を設置し、市内事業所に周知することにより、事業所従業員が、環境負荷や健康を意識し、公共交通・徒歩・自転車での通勤(エコ通勤)を推進する。	健康経営(従業員の健康)という新しい観点から、自転車利用の啓発を実施することができた。また、職場からの自転車利用を促すことで、これまで自転車利用をしてこなかった個人(従業員)に対し、きっかけの提供や動機付けを行うことができた。  (とよはし健康宣言事業所) R2年:125社 R3:145社 R4:160社 R5:174社	豊橋市(健康政策課) 豊橋商工会議所 全国健康保険協会愛知支部
				2-4	環境マネジメントシステム推進事業	・豊橋市エコアクションプラン(第6次)の推進にあたり、とよはしエコマネジメントシステム(T-EMS)を活用しており、エコ通勤の実施日数を令和元年度比で4%増加するという目標を掲げ、研修などを通じて、エコ通勤の普及に努める。 ・とよはしエコマネジメントシステム(T-EMS)を活用した管理及び報告	T-EMSの令和5年度年間実績報告において、エコ通勤の実施日数が令和元年度比で4%増加。	R5年度目標:229,486日 R5年度実績:270,051日 目標達成率:117.7%	豊橋市(ゼロカーボンシティ推進課) 豊橋市役所の職員、会計年度任用職員、再任用職員
	支援・補助	貸付・補助による自転車活用の推進	行政企業	2-5	自転車損害賠償保険を包括する保険の団体扱いの開始	・令和元年10月1日から加入が義務となっている自転車利用者の自転車損害賠償保険等について、それを包括している保険の新規加入・内容変更の募集案内を職員へ行い、保険料については給与から控除する団体扱いを行う。	事業の継続的な実施。	・職員への案内、保険の団体扱いを実施。自転車損害賠償保険の加入を促進できた。	豊橋市(人事課)
				2-6	通勤手当の加算	通勤距離区分が2km以上15km未満で自転車通勤の場合に、通勤手当の加算を行う。【平成27年度から、通勤距離区分の拡大及び手当額の引き上げを実施している】	「通勤手当の加算」の継続により、一定の自転車通勤者数を維持	平成27年度に引き続き、通勤手当の増額を行った。 2km以上5km未満 5,500円(自転車以外:2,000円) 5km以上8km未満 9,200円(自転車以外:4,100円) 8km以上15km未満 11,700円(自転車以外:7,100円) 令和3年度から自転車通勤者数800人以上を維持できており一定の効果を得られたことからR5年度をもって加算を廃止する。 ※R6以降も引き続き自転車以外と同額を支給する。	豊橋市(人事課)
	情報提供	企業と連携した健康効果の検証	行政企業	2-8	自転車通勤切替による健康効果の検証	自転車通勤による健康効果を確認するため、山口大学と連携して、豊橋市役所職員の通勤手段と健康データの分析を行う。	健康効果での啓発により、自転車利用を促す。	分析結果の整理を行っており、今後、活用しながら啓発を行いたい。	豊橋市(都市交通課) 山口大学
		安全・快適な移動経路などの情報収集・提供(再掲)	行政企業	2-9	自転車安全・快適利用啓発事業(ステッカー貼付)(再掲)	バス車両後方左側に「自転車は左側通行」のステッカーを貼ることによって、自転車利用者に交通ルールとマナーを訴える。	・視覚的に訴えることにより、事故のリスクを低減させる。	平成27年度より、継続してステッカーを貼っている。 お客様のバス降車時に自転車との接触事故を受けて、事故防止会議にてドラレコの映像を検証して指導した。	豊鉄バス
		新しい生活様式での自転車の活用情報の提供	行政	2-10	コロナ禍における自転車通勤の推進	県境地域通勤環境推進協議会の参画事業所を対象に自転車通勤に関するニュースレターを送付し社員への配布及び社内掲示をしてもらうことで、自転車通勤を促す。	ニュースレターを発行して自転車通勤者の増加を目指す。	人との接触の低減となる自転車活用に寄与した。県境地域の事業所8社にニュースレターを配布し自転車通勤を促した。	豊橋市(都市交通課) 県境地域の事業所

買物

○ 実現したい将来の姿

- ・子育て世代でも、高齢者でも、安心して自転車で買物に行けるようになります。
- ・店舗側も積極的に自転車を受け入れるようになり、気軽に使いやすくなります。
- ・気軽に自転車でも買物に出かけるようになり、店舗側にも顧客増加のメリットが生まれます。
- ・中心市街地にも、自転車で集まる人が増えて、まちなかのにぎわいがさらに高まります。
- ・電動アシスト付き自転車がさらに普及することで、重い荷物があるときでも、少し離れたお店に行きたいときでも自転車が利用でき、暮らしやすさが高まります。

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

活用場面	事業の区分	施策	関係団体	整理番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	事業実施関係団体
③ 買物	安全教育	店舗を通じた顧客対象の安全啓発	行政企業	3-1	—	—	—	—	—
		交通安全教育などの継続・充実(再掲)	行政警察	3-2	交通安全教室の実施	対象年齢や交通事故情勢等に合わせた交通安全教室の実施	交通事故死者数 8人以下	令和5年度に実施した「自転車」の内容で実施した交通安全教室 対象:高齢者 回数:7回 185人 令和5年の交通事故死者数は、6人のため達成	豊橋市(安全生活課)
				3-3	イベント内での自転車交通安全利用の啓発(再掲)	車を使わない移動について考えるイベントのカーフリーデー内で自転車シミュレーターを活用した自転車安全利用の啓発を行う。	・自転車シミュレーターを活用してイベントを楽しみながら自転車の安全な利用について啓発する。	イベントを楽しんでもらいながら、自転車の安全利用について学ぶ機会を創出できた。 ※(参考)カーフリーデー来場者数約2,100人	豊橋市(都市交通課、安全生活課)
		貸付・補助事業と連携し安全啓発の実施	行政	3-4	自転車安全利用の教育	三人乗り自転車(電動アシスト)の貸出決定者に対し、安全生活課が配布しているヘルメット購入補助金のチラシを配布する。購入補助は実施しない。	自転車を利用するうえで、ヘルメットを着用する重要性を伝える。	ヘルメットを着用する重要性を伝えることができた。	豊橋市(保育課) 豊橋市(安全生活課)
	意識啓発	買物交通を健康づくりの機会に活かす自転車活用の周知(再掲)	行政企業	3-5	自転車活用による健康効果の検証(再掲)	自転車活用による健康効果を確認するため、山口大学と連携して、健康データの分析を行う。	健康効果での啓発により、自転車利用を促す。	分析結果の整理を行っており、今後、活用しながら啓発を行いたい。	豊橋市(都市交通課) 山口大学
	支援・補助	貸付・補助による自転車活用の実施(再掲)	行政	3-6	三人乗り自転車貸出	就学前の満1歳以上4歳未満及び満2歳以上の幼児を2人以上養育し、豊橋市内に居住している家庭を対象に、三人乗り自転車(電動アシスト)の貸出を行う。 ※令和4年度より新規貸出受付を終了し、令和3年度より継続して利用を希望する対象者に限り貸出を実施する。	子育て家庭の支援の一環として、自転車活用の推進および移動に係る保護者の負担軽減を行う。	子育て家庭の日常生活における親子での移動手段として自転車の活用を促すことができた。	豊橋市(保育課) 豊橋市(安全生活課)
				3-7	高齢者運転免許自主返納電動アシスト自転車購入補助	1年以内に運転免許証を自主返納した70歳以上の方に対して電動アシスト自転車の購入代金を補助することで、利用を促進する。	免許証を自主返納した高齢者に対して補助を行うことで、電動アシスト自転車の利用と自主返納を促す。	電動アシスト自転車の利用を促進した。 令和3年度補助金利用件数 92件 令和4年度補助金利用件数 87件 令和5年度補助金利用件数 82件	豊橋市(安全生活課) 市内の自転車販売店
	情報提供	安全・快適な移動経路などの情報収集・提供	行政企業	3-8	自転車安全・快適利用啓発事業(ステッカー貼付)(再掲)	バス車両後方左側に「自転車は左側通行」のステッカーを貼ることによって、自転車利用者に交通ルールとマナーを訴える。	・視覚的に訴えることにより、事故のリスクを低減させる。	平成27年度より、継続してステッカーを貼っている。 お客様のバス降車時に自転車との接触事故を受けて、事故防止会議にてドラレコの映像を検証して指導した。	豊鉄バス
				3-9	ヘルメット着用やサイクルトレインの周知	・ヘルメット着用についてリーフレット等により周知する。 ・自転車での移動手段として、渥美線のサイクルトレインをリーフレット等により周知する。	・安全で快適な自転車利用についての意識の醸成を図る。 ・サイクルトレインなどの自転車環境の周知により、買い物時での自転車利用者を増やす。	ヘルメット着用やサイクルトレイン等を掲載したリーフレットを自転車販売店等に配布した。	豊橋市(都市交通課) 豊橋鉄道

○ 実現したい将来の姿

- ・ 自転車であちをめぐる市民が増えて、まちへの愛着の醸成や健康づくりにつながります。
- ・ 本市の交通結節機能を活かすことで、太平洋岸自転車道でつながる渥美半島から浜名湖にかけての広域的な自転車観光の拠点となることが期待されます。
- ・ 太平洋岸自転車道を楽しむ人が、市内の観光スポットに立ち寄るようになります。
- ・ 自転車であちを楽しむ姿が伝わり、次第に「自転車×とよはし」の魅力が高まります。

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

活用 場面	事業の区分	施策	関係団体	整理 番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	事業実施関係団体
④ レクリエーション・ 観光	安全教育	自転車イベントに合わせた安全教育の実施	行政 民間団体	4-1	自然溢れるサイクリングロードでサイクリング体験	小学1年生から中学生を対象としたサイクリング体験。施設に隣接する豊橋田原自転車道を活用し、自然環境の中で、健やかな成長を育む機会及びチームワーク、目標を達成することにより達成感を味わうことができる体験を提供。	地域の自然環境・サイクリングロードを活用し自転車利用の推進。	子供たちが自転に乗る楽しみ・きっかけを提供でき、参加者アンケートの満足度は高かった。令和5年度より低学年から参加可能としたことにより、多くの低学年の子たちにも参加してもらえ、一層の自転車利用の推進が図られた。	豊橋市(生涯学習課少年自然の家) カントリーモーニング
	意識啓発	自転車を楽しむ機会の充実		4-2	デジタルサイクリングマップを利用したサイクリングイベント	・サイクリングをより快適に楽しむために「はしってみ輪とよはし」サイクリングマップをデジタル化する。 ・デジタルサイクリングマップを活用したサイクリングイベントを開催。	豊橋市内外のおすすめコースを周遊してもらう機会の提供および自転車の観光利用の促進。	デジタルサイクリングマップを活用したサイクリングイベントを実施した。R5年度はナショナルサイクルルート沿線でもある田原市と連携し、地元祭りの会館やお菓子を提供、サイクリングを日常的に楽しんでもらうきっかけづくりとなった。 参加者 2日間で計25名	豊橋市(都市交通課) カントリーモーニング
				4-3	ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバルを開催	サイクルフェスティバルとして道の駅とよはしを発着点とし、秋は浜名湖方面、春は渥美半島方面でコースを設定、それぞれ3日間で計画する。	楽しんでもらえるコース設計をし、昨年並みの集客人員を見込みながら新たな客層の掘り起こしを目指す。	秋のサイクルフェスティバルは道の駅を発着として湖見坂～弁天～瀬戸橋～二川～動物園でセグウェイ体験乗車を行った。春のサイクルフェスティバルは大清水駅を発着としてサイクルトレインを利用し、太平洋岸自転車道～ロングビーチ～赤羽根道の駅～恋路ヶ浜など渥美半島を1周した。 参加者数: 26名(春)、37名(秋)	ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル実行委員会 事務局:(一社)豊橋観光コンベンション協会、豊橋市、豊橋商工会議所、豊橋市スポーツ協会、豊橋総合動植物公園、豊橋みどりの協会 日本トータ、ヤマサちくわ、ユタカ産業、豊橋鉄道、豊橋信用金庫
				4-5	市民スポーツ祭2023【自転車】を開催	大会の実施 ・市民を対象に競輪場のトラックでのタイムトライアル(400m、1km)を行う。 ・小学生の部から60歳以上のシルバーの部まで7つの部門で競い合う。	アマチュア自転車競技の普及振興・技量の向上に資する。	普段走ることのない競輪場のトラックでの競技を経験して自転車競技の楽しさに触れてもらった。令和5年度豊橋自転車競技大会と同日開催(R5.9.17開催) 参加者: 47名	豊橋自転車競技協会、豊橋市、(公財)豊橋市スポーツ協会、愛知県自転車競技連盟、(公財)JKA、(社)日本競輪選手会愛知支部
				4-6	第20回豊橋万場クリテリウムロードレース大会を開催	大会の実施 ・愛知県自転車競技大会の10周年を記念し第1回が企画され20回目を迎え、万場調整池の管理用通路を周回コースとしてロードレースを開催。	アマチュア自転車競技の普及振興・技量の向上に資する。	種目は4時間エンデューロと個人ロードレース、チームタイムトライアルがありそれぞれに部門が分かれ、未就学児から実業団選手まで幅広い年代が自転車競技を楽しめる大会となった。(R5.9.24開催) 参加者: 251名	豊橋自転車競技協会、豊橋市、豊橋市教育委員会、(公財)豊橋市スポーツ協会、独立行政法人水資源機構
				4-7	とよはしサイクルマラソンを開催	大会の実施 ・レースではなく、交通ルールを守った自分のペースで安全に走る大会	アマチュア自転車競技の普及振興・技量の向上に資する。	新城桜淵公園スタート・ゴール東栄町を周遊するコースにて実施。(R5.10.1開催) 参加者: 70名	豊橋自転車競技協会、東栄町、新城市、(公財)豊橋市スポーツ協会
				4-8	令和5年度豊橋自転車競技大会の開催	大会の実施 昭和31年から毎年開催しており、アマチュアの自転車愛好者にビスト競技の楽しさ、面白さなどを体験していただくとともに自転車競技の啓蒙普及を図る。	アマチュア自転車競技の普及振興・技量の向上に資する。	1kmタイムトライアル、エリミネーションスクラッチ、ケイリンの種目があり、競技種目により豊橋市長賞、市議会議長賞、体育協会理事長賞が贈られた。市民スポーツ祭2023【自転車】と同日開催。(R5.9.17開催)	豊橋自転車競技協会、豊橋市、(公財)豊橋市スポーツ協会、愛知県自転車競技連盟、(公財)JKA、(社)日本競輪選手会愛知支部
				4-9	カーフリーデーの開催	車を使わない移動手段について考える「カーフリーデー」というイベント内で自転車の利用促進のため自転車に関するブースを企画する。	レクリエーション・日常利用に係る自転車の活用推進を図る。	下記、自転車関連企画を実施した。 ・自転車シミュレーターを使用した交通安全教室 ・マウンテンバイク・BMXフリースタイルショー ・子ども向けスポーツ自転車&ヘルメットの展示・販売 ※(参考)カーフリーデー来場者数約2,100人	豊橋市(都市交通課、安全生活課)、 日本マウンテンバイク協会中部支部

レクリエーション  
観光

- 実現したい将来の姿
  - ・自転車であちをめぐる市民が増えて、まちへの愛着の醸成や健康づくりにつながります。
  - ・本市の交通結節機能を活かすことで、太平洋岸自転車道でつながる渥美半島から浜名湖にかけての広域的な自転車観光の拠点となることが期待されます。
  - ・太平洋岸自転車道を楽しむ人が、市内の観光スポットに立ち寄るようになります。
  - ・自転車であちを楽しむ姿が伝わり、次第に「自転車×とよはし」の魅力が高まります。

災害

- 実現したい将来の姿
  - ・災害時の備えとして自転車を整備し、利用することで、日常での活用推進にもつながります。
  - ・備えを行うことで災害に対する意識が高まります。
  - ・災害時においても自転車での避難が可能となります。
  - ・発災後、自転車を活用することで、移動手段を増やすことができます。

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

活用場面	事業の区分	施策	関係団体	整理番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	事業実施関係団体
④レクリエーション・観光	意識啓発	サイクリスト受入環境の向上	行政企業	4-11	サイクルツーリズムの推進	・レンタサイクルの運営(専属スタッフの配置)、サイクリング関係消耗品の販売や、他地域のサイクリングに関する情報収集及び発信や観光案内、サイクリストの誘客及び消費喚起を図るためのイベントを開催予定。 ・道の駅とよはし地域振興施設内サイクリング関連消耗品の販売実施 ・サイクリングに関する情報発信を実施	専属スタッフを配置し、適切なレンタサイクルの運営及びサイクリング関係消耗品の販売を実施する。 また、併せてサイクルルートや観光名所等の案内ができるよう努める。	・道の駅とよはし地域振興施設でのE-BIKEのレンタサイクル 令和5年度実績 128件 ・道の駅とよはし地域振興施設内サイクリング関連消耗品の販売実施 ・サイクリングに関する情報発信を実施	豊橋市(観光プロモーション課)、株式会社道の駅とよはし、豊橋観光コンベンション協会、市内自転車関係事業者
				4-12	サイクルビット維持管理	サイクルビットの設置 ・市内の公共施設やコンビニなど、自転車の簡易なメンテナンス等を行える場所として23箇所のサイクルビットを設置しており各施設や店舗で運用している。 ・木製のサイクルラックの塗装など、メンテナンスを行う。	自転車でアクセスしやすくなることで、利用者の増加が見込める。	自転車用工具や空気入れ等の貸出を行った。	豊橋市(健康政策課、都市交通課、「スポーツのまち」づくり課、「文化のまち」づくり課、生涯学習課、美術博物館、株道の駅とよはし、コンビニなど
				4-13	工具ステーションの設置	サイクリストの利便性を高めるため、24時間自転車の簡単なメンテナンスができる工具ステーションをサイクリング発着地となる市内主要3か所(道の駅とよはし東側駐車場、豊橋駅南口駅前広場、りすば豊橋駐輪場)に設置した。	点検を行う。	カントリーモーニングへ設備点検・錆取り修繕を委託し、故障箇所等なし。 概ね状況は良好であるため、今後も継続して維持管理をしていく。	豊橋市(観光プロモーション課、健康政策課)、(株)穂の国健幸づくりパートナーズ(施設管理者)、株道の駅とよはし
	情報提供	レクリエーション・観光情報の情報発信	行政民間団体	4-14	デジタルサイクリングマップの活用	・デジタルサイクリングマップを作成し、豊橋市内のおすすめコースを市HPに掲載する。 ・デジタルサイクリングマップの活用推進イベントを実施する。	サイクリングの際に分かりやすく扱いやすいマップを提供し、自転車の利用促進につなげる。	・googleマップを使用しデジタル化、サイクリングアプリやサイクルコンピュータで活用可能なgpxデータを市HPで公開。 ・「デジタルサイクリング2024」イベントを開催し、デジタルサイクリングマップの使い方を説明、イベントではコース上の危険箇所や立ち寄りスポットなどを掲載し活用してもらった。	豊橋市(都市交通課)
				4-15	自転車利用促進リーフレット作成(再掲)	自転車通行の原則や注意事項、自転車通行空間やサイクルトレインなどを掲載したリーフレットを市内の高校1年生へ配布する。	・安全で快適な自転車利用についての意識の醸成を図る。	市内の新高校1年生(約3500名)へリーフレットを配布し、自転車通行の原則や注意事項、自転車の環境整備について周知できた。 R5年度は市内自転車販売店にも配布したほか、道の駅とよはしでお得にサイクリンググッズが買えるキャンペーンも実施。	豊橋市(都市交通課)
				4-16	サイクルトレイン等PR【資料1-2】	サイクルトレインやサイクルビット等をリーフレットやイベントによりPRを図る。	・サイクルトレインなどの自転車環境の周知により、自転車利用者を増やす。	・サイクルトレインを活用したコースによるサイクリングイベントを行った。 ・リーフレット「豊橋CITY CYCLEスタートブック」にサイクルトレインやサイクルビット等を掲載した。 ・自転車情報誌「バイシクルクラブ」でサイクルトレイン特集記事を掲載された。 ・サイクルトレイン利用者はコロナ禍で一時的に減少したが、現在、コロナ禍前以上の利用者数となっている。	豊橋市(都市交通課) 豊橋鉄道
⑤災害	意識啓発	災害時を想定した日常での自転車活用の推進	行政	5-1	防災講座等による災害時の自転車活用に関する啓発	自転車活用推進計画と連携し、災害時の備えとして、自転車をいつでも利用できるように定期的に整備することや、災害時の自転車活用の必要性を啓発した。	災害時での自転車の利用意識を啓発	災害時の適切な移動手段はその時の被災状況や住環境によって異なることから、非常時の移動手段の一つとして各自で考えるよう啓発した。 令和5年度 防災講座 実績326回 参加者54,197人 ※防災講習会・防災訓練等を含む	豊橋市(防災危機管理課、都市交通課)
				5-2	デジタルサイクリングイベント時の災害時の自転車利用啓発	デジタルサイクリングイベント時に災害時の活用の場面などの説明を行う。	災害時での自転車の活用方法を周知し、状況に応じて自転車活用につなげる。	自転車店員による日常的な自転車のメンテナンス講座と市から災害時の自転車の活用について説明を行い、災害時でも自転車が活用できることを伝えた。	豊橋市(防災危機管理課、都市交通課)
	支援・補助	災害時などの自転車の整備点検	行政企業	5-3	—	—	—	—	
	情報提供	防災啓発資料への自転車活用情報の提供	行政	5-4	—	—	—	—	
⑥その他			行政民間団体	6-1	「環境フェスタ」などでの自転車の提供	愛知県主催「Let's エコアクションin Aichi」にて「リユース」をPRするため、大きなごみとして排出された自転車を、職員による整備の上、抽選で無償提供を行う	展示した全ての自転車を抽選し、無償提供を行う	展示した32台の自転車を全て抽選し、無償提供することができた。、無償提供することができた。	豊橋市(収集業務課) 530運動環境協議会
				6-2	豊橋市自転車の快適で安全な利用の推進に関する条例の推進	条例の周知を図っていくとともに、自転車の交通事故が多い世代である高校生の交通安全対策をより推進するため、市内の高等学校で交通安全モデル校を定め、行政・学校が一体となって交通事故削減のための取り組みを行う。	自転車安全利用モデル校の豊橋西高校、警察と連携して自転車の交通安全啓発活動を推進して、市内の他の高校でもこの取組が波及することを目標に、高校生の交通事故ゼロを目指す。	自転車安全利用モデル校の豊橋西高等学校と一体となって毎月1回の朝の交通立ち番への参加や、校内放送で交通安全を呼び掛け等啓発活動を行った。	豊橋市(安全生活課) 愛知県、市内高等学校、豊橋警察署、損害保険会社、保険代理店

**通行空間**

- 実現したい将来の姿
  - ・市内の中学校、高等学校、大学、企業、店舗などに安全・快適に移動できるようになり、自転車事故の減少や過度な自家用車からの転換が期待できます。
  - ・鉄道駅などに安全・快適に移動できるようになり、自家用車での送迎などが減少します。
  - ・レクリエーションや観光、健康づくりなど、余暇で自転車を利用しやすく、楽しみやすくなります。

**駐輪環境**

- 実現したい将来の姿
  - ・サイクルアンドライドがしやすくなり、鉄道駅にアクセスする際の移動手段として、自家用車利用から自転車への交通手段の転換が期待されます。
  - ・まちなか駐輪環境が向上することにより、中心市街地に自転車で訪れやすくなり、まちなかのにぎわい向上が期待されます。

※表中の●は新規事業内容を対象に表示しています。

令和5年度に実施した事業

令和5年度に実施した事業							事業実施関係団体	
事業の区分	施策	関係団体	整理番号	事業名称	事業内容	当該事業における目標	達成状況	
自転車活用を支える基盤づくり	【通行空間】の整備	行政	7-1	自転車通行空間の整備 (豊橋市(道路建設課))	・整備計画による自転車ネットワークの整備を実施。	通勤、通学及び日常利用のみならず余暇利用等を推進するため、安全・快適な自転車ネットワークの整備を行う。 整備延長:L=0.7km	整備計画により、市道 神明町・向山大池町1号線ほか約0.7kmの自転車ネットワークの整備を行った。 令和5年度に実施予定の箇所については、自転車ネットワークの整備を実施できた。今後も計画に基づき自転車ネットワークの整備を実施していく。	豊橋市(道路建設課)
			7-2	自転車通行空間の整備 (愛知県)	・整備計画による自転車ネットワークの整備を実施。	通勤、通学及び日常利用のみならず余暇利用等を推進するため、安全・快適な自転車ネットワークの整備を行う。	(一)東赤沢植田線 自転車通行帯をL=760m整備した (一)田原豊橋自転車道線 自転車道をL=48m整備した (主)豊橋渥美線 自転車通行帯をL=1108m整備した	愛知県(東三河建設事務所 道路整備課)
	行政	7-3	自転車通学時の安全確保に向けた個別対策の実施	自転車の歩道通行が通学路の安全を損なっている区間について、個別対策として自転車通行空間の確保を検討	—	—	豊橋市(都市交通課、学校教育課、道路維持課)	
	【駐輪環境】の整備	行政 企業	7-4	サイクル&ライド駐輪場の整備	利用状況に応じて整備を検討	—	—	豊橋鉄道 豊橋市(都市交通課)
			行政	7-5	自転車等駐車場管理運営事業	指定管理者制度による豊橋市自転車等駐車場(豊橋駅東口、豊橋駅西口、二川駅南口)の管理・運営を継続するとともに、長寿命化計画に基づく施設修繕を行う。	利用者にとって安全・安心な施設環境の維持	・豊橋駅西口自転車等駐車場の自動火災報知設備取替修繕 ・サイクルコンベアの修繕 ・豊橋駅東口自転車等駐車場防犯カメラシステムの取替修繕